

食品廃棄ゼロ・オーガニックシティおかざきモデル  
事業報告書

---

実施団体名 岡崎市

2026年1月

# 1 . 事業の目的

## 背景

岡崎市として食品ロス削減にさまざまな取組を実施しているものの、近年は横ばい状態食品廃棄物の再利用による直接的な削減 + 啓発事業による食品ロスの削減の効果でさらなる削減を目指す。

## 食品廃棄ゼロエリアの創出と食品残渣の資源化

食品廃棄物については、資源化により廃棄そのものの削減を行う。また、有機農業の推進を行う本市の強みを活かし、食品廃棄物を原材料として使用し、堆肥事業者による良質な堆肥の製造を試みる。

## 小学生を対象に食品ロスの削減の啓発

小学生が身近に感じやすい給食をテーマとして扱うことや、実際に取組みに関わりを持つことで興味を持ちやすく、啓発の効果の向上が期待できる。



## 2. 事業の内容

事業の実施エリア：（岡崎市北部エリア）

### 事業目標

食品廃棄物の縮小・ゼロ化と、再利用による産業面への活用の両立

取組	実施内容	取組対象	実施時期
<b>業務用食品残渣発酵分解装置による発酵処理</b>	学校給食センター、産直施設が自社で食品残渣を投入。 （右図） <b>黄色：投入日</b> <b>緑色：発酵期間</b>	学校給食センター：2台 産直施設：2台 （複数設置によりローテーションを組むことで効率化を図る。）	令和7年11月12日～ 令和7年12月19日
<b>収集運搬</b>	でできた処理物を収集し堆肥事業者へ運搬。 （右図） <b>赤色：収集・運搬</b>	一般廃棄物に係る収集運搬の許可を持つ事業者	令和7年11月26日～ 令和7年12月19日
<b>堆肥化</b>	で搬入された成果物を用いて堆肥化する。 堆肥化にあたっては窒素、炭素、りん酸、加里等の量を分析。	堆肥事業者	令和7年11月13日～ 令和8年1月28日
<b>広報</b>	完成した堆肥や今回の取組みを活用した食品ロス削減の啓発を実施。	地域の小学校：2校	令和8年1月22日～ 令和8年1月23日

**発酵処理と収集・運搬の図**

日付		産直施設		学校給食センター	
		1号機 (MDT-100)	2号機 (MDT-1000) 大型	3号機 (MDT-100)	4号機 (MDT-100)
11月12日	水	投入	休止	投入	休止
11月13日	木	投入	休止	投入	休止
11月14日	金	投入	休止	投入	休止
11月15日	土	発酵処理	投入	発酵処理	投入
11月16日	日	発酵処理	投入	発酵処理	投入
11月17日	月	発酵処理	投入	発酵処理	投入
11月18日	火	発酵処理	投入	発酵処理	投入
11月19日	水	発酵処理	投入	発酵処理	投入
11月20日	木	発酵処理	投入	発酵処理	投入
11月21日	金	発酵処理	投入	発酵処理	投入
11月22日	土	発酵処理	発酵処理	発酵処理	発酵処理
11月23日	日	発酵処理	発酵処理	発酵処理	発酵処理
11月24日	月	発酵処理	発酵処理	発酵処理	発酵処理
11月25日	火	発酵処理	発酵処理	発酵処理	発酵処理
11月26日	水	収集・運搬	発酵処理	収集・運搬	発酵処理
11月27日	木	投入	発酵処理	投入	発酵処理
11月28日	金	投入	収集・運搬	投入	収集・運搬
11月29日	土	発酵処理	投入	発酵処理	エラー発生
11月30日	日	発酵処理	投入	発酵処理	エラー発生
12月1日	月	発酵処理	投入	発酵処理	エラー発生
12月2日	火	発酵処理	投入	発酵処理	投入
12月3日	水	発酵処理	投入	発酵処理	投入
12月4日	木	発酵処理	投入	発酵処理	投入
12月5日	金	収集・運搬	投入	収集・運搬	投入
12月6日	土	投入	発酵処理	投入	発酵処理
12月7日	日	投入	発酵処理	投入	発酵処理
12月8日	月	投入	発酵処理	投入	発酵処理
12月9日	火	投入	発酵処理	投入	発酵処理
12月10日	水	投入	発酵処理	投入	発酵処理
12月11日	木	投入	発酵処理	投入	発酵処理
12月12日	金	投入	発酵処理	投入	収集・運搬
12月13日	土	発酵処理	発酵処理	発酵処理	休止
12月14日	日	発酵処理	発酵処理	発酵処理	休止
12月15日	月	発酵処理	発酵処理	発酵処理	休止
12月16日	火	発酵処理	発酵処理	発酵処理	休止
12月17日	水	発酵処理	発酵処理	発酵処理	休止
12月18日	木	発酵処理	発酵処理	発酵処理	休止
12月19日	金	収集・運搬	収集・運搬	収集・運搬	休止

# 3 . 事業の実施体制



# 4 . 事業の成果

## ・業務用食品残渣発酵分解装置の効果検証

食品廃棄物を**1,173kg**削減

(内訳) 給食センター**910kg** (キャベツ、白菜、にんじん等)

産直施設 **263kg** (キャベツ、白菜、だいこん、冬瓜等)

## ・堆肥を特殊肥料として届出 (主要な成分の含有量等 乾物あたり)

窒素全量**1.7%** リン酸全量**1.4%** 加里全量**2.3%** 炭素窒素比**8**)

## ・食品ロスの削減

小学生を対象とした食農教育の実施後、食品ロスに対する理解度や意識の変化、給食の食べ残し量の変化に関するアンケートを小学生に対して実施 (エリア内の**小学校2校**、**102名**が対象)

~~アンケート結果~~

### 1. 野菜の切れはしが堆肥 (たいひ) になることを知っていましたか？

知っていた :21人 今日初めて聞いた :78人 無回答 :3人

### 2. 「食品リサイクルループ」 (調理くず (野菜の切れはしなど) や食べ残しが、たい肥などになり、また食べ物を作るのに使われるしくみ) について知っていましたか？

知っていた :11人 名前だけ聞いたことがあった :25人 今日初めて聞いた :63人 無回答 :3人

### 3. 食品ロスの意味を知っていましたか？

知っていた :90人 知らなかった :12人

### 4. 日本で1年間に捨てられる食べ物の量におどろきましたか？

とてもおどろいた :49人 まあまあおどろいた :34人 あまりおどろかなかった :15人 無回答 :4人

### 5. 授業を受けて、食べ物を捨てることをどう思うようになりましたか？

もったいないと思うようになった :90人 あまり変わらなかった :11人 無回答 :1人

### 6. 授業を受けて、ちょっと苦手な食べ物も、一口は食べてみようと思いましたか？

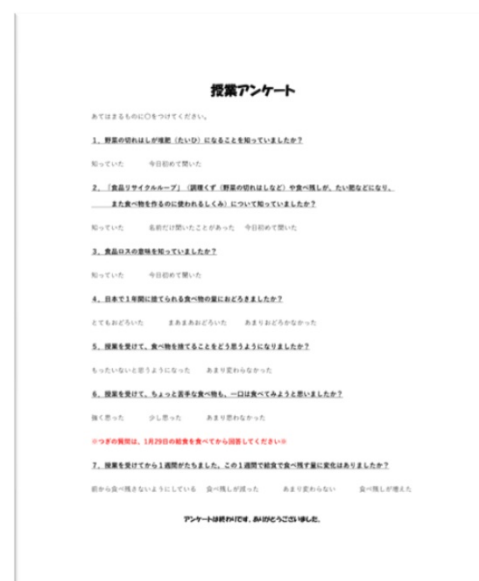
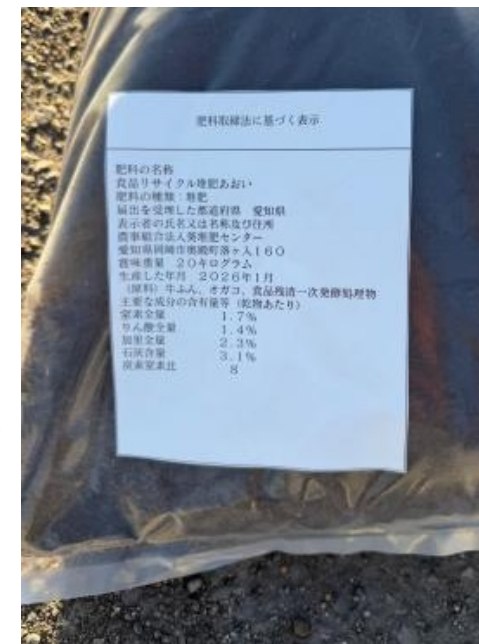
強く思った :49人 少し思った :41人 あまり思わなかった :10人 無回答 :2人

### 7. 授業を受けてから1週間がたちました。この1週間で給食で食べ残す量に変化はありましたか？

食べ残しが減った :55人 あまり変わらない :30人 食べ残しが増えた :12人 無回答 :5人

あまり変わらないという中には、クラスで前から食べ残しが少ないという状況もあった

担任の先生への聞き取りでは、4人中3人が食べ残しが減り、1人は変わらない (以前から食べ残しが少ない) であった



## 5 . 今後の検討課題

### 有価物か廃棄物か

廃棄物処理法上での判断となる。買取りをされたら有価物と認められるのではなく、**さまざまな視点で判断**をされるため（総合判断説）、**有価物の認識でも許認可が必要な事が多い**。他地域で**有価物判断の事例でも地域により判断は変わる**。この**認識が無いと違法行為を行ってしまうことがあるため注意が必要**。

### コストの問題

当初予定していた一次発酵処理による有価物扱いができず、運搬優位性は消失した。自走化に向けては、現在の廃棄物としての運搬コスト等の削減に向けた改善は必要。従来の事業系一般廃棄物としての処理費用との比較については、短期的な排出量の低下では費用は変わらなかったが、**長期的かつ一定量の廃棄物の削減をすればコストダウンは可能**。

### 課題の解決に向けて

- **食品リサイクル法の利用は小規模の排出事業者が取組もうとするのは容易ではないため、より簡易的に取組める仕組みができるとよい**
- **食品リサイクルの新規事業を実施する状況で、総合判断説の「市場性」の部分については実績が無いため、実験データ、市場の見込みなどを提示するなど担保とし、実証実験などをできる仕組みができると進めやすい**

## 6 . 事業終了後の展開

### 完成した堆肥の小学校の栽培体験や学校の花壇での利用

岡崎市において行った本事業を説明に取り入れることで食品廃棄物のリサイクルを身近に感じてもらい、環境問題を考えるきっかけとする。一定期間経過後にアンケートを行うことで、時間の経過による食品ロスに対する意識の変化を調査し、効果の持続性を調査する。

### 有機市民農園等での利用

堆肥の効果を実感してもらい、有機農業に取り組む人の増加を図る。有機農業の推進により化学肥料の使用量を削減が可能に。また、有機農業の啓発につなげることでエシカル消費を推進する。

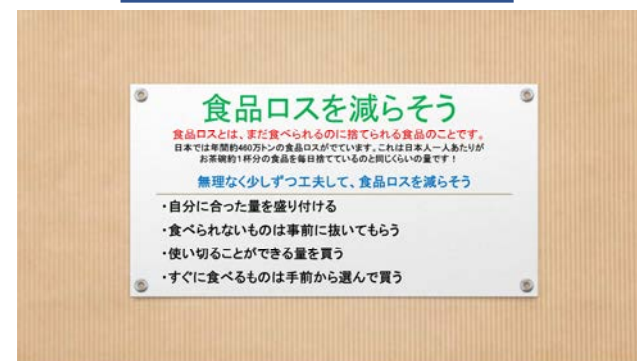
有機市民農園



完成した堆肥



食農教育の資料



## 7. 横展開へのポイント

- コスト面においては食品残渣が一般廃棄物よりも産業廃棄物に該当する職種でスタートする方が有利
- 食品廃棄物を原材料とした堆肥を利用した食農教育は、子ども達が体験しながら学べることで、楽しみながら食品ロスについて理解でき、意識の変化をもたらすことから啓発としての効果は高い
- 完成堆肥の有機市民農園等への活用も体験型であり、啓発事業としての効果が期待できる
  
- **コストはかかるものの環境について考える貴重な機会の創出という点はメリット**
- **完成堆肥のブランド化や消費者のエシカル消費が進めば価格転嫁ができ、製造コストの高い食品廃棄物を利用した堆肥の製造の自走化の可能性もある**